

薬学部関係者向け薬剤疫学に関する教材の提供にあたって

日本薬剤疫学会「薬学教育と薬剤疫学タスクフォース」では、2005年10月と薬学教育6年制が導入された直後の2006年7月に全国の薬科大学学長および大学薬学部薬学部長にアンケートを送り、認識度と講義の現状について調査を行いました。その結果、関連する講義は増えてはいるものの、薬学教育関係者の間で薬剤疫学の必要性の認識度は残念ながら未だに低いことが明らかになりました。（「薬剤疫学」2009;14(1):13-20 参照）

薬剤疫学は未だ若い学問領域ですので、他の領域のように多くの成書や権威のある教科書が多数存在している訳ではありません。そこで、日本薬剤疫学会では、薬学部関係者向けに薬剤疫学に関する教材「薬剤疫学の講義用パワーポイント」（講義用PPT）と「薬剤疫学に関する既存の書物・教材リスト」（関連成書集）を作成しましたので紹介します。

講義用PPTは、薬学部学生を対象にした講義における利用を想定しています。疫学研究の方法については主として（有）レーダー出版センター発行（丸善株式会社出版事業部発売）、くすりの適正使用協議会監修、藤田利治編集による「実例で学ぶ薬剤疫学の第一歩」を参考に作成しました。この講義用PPTは広い内容を含み、学生の熟知度に応じてどこからでも利用できるように考えました。利用に際しては、具体的なシナリオを作成し、それに必要なスライドを選択して講義に活用して頂けます。また、関連成書集は、多方面から収集されたもので薬剤疫学にとって重要な実例集が記載された書物に記載されており活用できます。これらを参考にして薬学教育において薬剤疫学を教授して頂ければ幸いです。

薬学教育が6年制になり、また我が国の医療の中で薬剤師の役割が重要視されつつあることは社会の強い要請であります。調剤する薬剤師にまた重要な情報が提供されることを意味します。調剤している患者の薬物療法、その患者が診療を受けた医療施設の薬物療法の有効性や安全性に関する評価を薬剤疫学の手法により評価できる道が拓ける可能性を示唆するものであります。このことによって調剤の現場から「薬剤疫学」が芽生え、薬剤師の確固たる職能に発展できればと期待しているところであります。

「薬学教育と薬剤疫学タスクフォース」メンバー 座長 北澤式文

海老原 格、折井孝男、景山 茂、後藤伸之、三田智文、津谷喜一郎、橋口正行
政田幹夫、望月眞弓、山村重雄